



代表取締役
三原 美津子



取締役
竹森 寛



山口県初の医療ツーリズム—— 先進医療 × 観光で山口を活性化

自国では受けられない高水準の医療サービスを受けることを目的に渡航する「医療ツーリズム」が注目されている近年。山口県では初めて、中国人富裕層向けにツアーの提供をスタートしたのが『光華』だ。本日は女優の島田陽子さんが、三原社長と竹森取締役に詳しいお話を伺った。

——早速ですが、お二人が今に至られるまでの歩みからお聞かせ下さい。

(三) 私は、親戚が薬屋を経営していた関係で医薬品関連の仕事に就き、医療分野に関わるようになりました。竹森取締役とは学生時代からの知り合いで、前職の会社と一緒に医療部門の立ち上げに携わったんです。その医療部門を独立させることになり、2017年に2人で、医療機器の提供や再生医療のサポート、医療ツーリズムなどを手掛ける総合商社『光華』を設立しました。

(竹) 私は、社長と同じ会社に勤めるまでは、医療機器の大手企業に勤務していました。お互いの経験や知識を活かせるだろうと会社設立に踏み切ったんです。

——『光華』さんは、医療機器や医薬品の販売に特化していらっしゃるって？

(三) いいえ。現在は、中国の富裕層を対象とした「医療ツーリズム」の提供に力を入れています。2018年から、下関に大型クルーズ船が寄港することになり、中国からの観光客も増えました。クルーズ船の乗船客を県内に呼び込めれば経済効果も期待できる中、当社は「やまぐち医療ツーリズム」をスタートさせることにしたんです。当社には中国人の役員もあり、竹森は医療分野に人脈もあるので、

それを強みとして事業をと考えました。

(竹) 医療ツーリズムは日本国内のインバウンド戦略の新たな動きとして注目されている取り組みで、都会では進んでいますが、山口では初めての試みです。人間ドックやがん検診、PET・CT検査、MRI、エコー検査、動脈硬化の検査などの医療健診を観光の合間に受けていただけまして、外国の方は無保険のため医療費が全額負担となりますが、それでも必要があるんですよ。

——それだけ日本で医療サービスを受けることを希望される方が多い、と。

(三) はい。中国の病院事情も大きな要因で、有名な大学病院ともなれば診察は1カ月待ちで整理券が必要だったり、入院は半年待ちという状況なんです。それに、日本の高度な医療技術は信頼を得ており、たとえ高い費用を支払ってでも、日本で医療サービスを受けたいという方が多いですね。当社は全国の病院と提携しており、万が一、治療が必要になった場合は医療ビザの申請・取得を経て、中国の協力病院とカルテなどの情報を共有した上で、山口県内の病院や提携しております全国の病院施設にて治療を受けていただきます。

(竹) 幹細胞治療、陽子線治療等最新の

切らない治療のプランニング、医者に見離された患者様の相談も受けています。

——では、サポート体制は万全ですね。ツアーはすでに実施を？

(三) はい。12月に会社を立ち上げてから2回開催しました。ツアーの定員は10名とまだ小規模ですが、参加された皆様には大変喜んでいただいていますので、受け入れ体制を整えていきたいです。(竹) ツアーには歓迎セレモニーを組み込んでいますし、観光に加えて山口県ならではのグルメもお楽しみいただけるよう工夫しています。

——検診は緊張しますが、観光との組み合わせならリラックスできますね。今後については？

(三) 行政や地域の方々、前職の社長、医療関係者など多くの方々に支えていただき、スタートすることができました。参加を望まれる方は多いですから、事業規模を拡大して、皆様のご要望に応じていきたい。同時に山口県の活性化にもつながれば、幸いです。

(2018年10月取材)

「提携病院は、『自分の身内を連れて行けるかどうか』を基準に選択されているそう。厳しい目で選ばれているので、安心して受診できますね」

interviewer

島田 陽子

